

教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
発行人 山名幸一
編集人 西嶋保子
電話 078(241)2345
1部7円 年定価280円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2008/8・11
No. 1722

2面

・教育課程編成講座 前期
・パネルディスカッション
・「ぶれない人権教育の創造
〜同和教育の確かさを受け継いで〜」より

気持ち新たに、2学期への実践へつなげる

(要旨掲載)

7月23日(水)から25日(金)までの3日間、六甲スカイヴィラで第35回教育課程編成講座が行われ、のべ約800人が参加した。

人権教育実態調査報告より

忌部淑恵さん(兵庫教育文化研究所副所長)による、



2008年度人権教育実態調査の報告で、教員の同和離れ、意識の大幅な低下が伺える結果がでた。忌部さんは、「特に、地区がないからとくみができないという答えは違っているのではないか。差別の問題は差別される側に問題があるのではなく、差別する側に問題がある。地区のあるなしにかかわらずとくむことが重要」「この調査を通して、法の持つ力の大きさを

感じた。法が切れたことで、これまで私たちがやってきたことが、ガタガタと崩れてしまっているのか。私たちは教職員として、今後どうするかを今日のディスカッションを通して考える機会になればと思う。これまで漠然と捕らえられていた人権教育や同和教育の実態が少し明らかになったのではないか。『地対財特法』はなくなったが、『人権教育世界プログラム』や文科省がだした『第三次とりまとめ』(案)、兵庫県の『人権

前期 全体会で、富田稔さん(天理大学人間学部講師)をコーディネーター、井上拓路さん(宝塚)、古田圭策さん(加印)、北谷錦也さん(兵庫組教文部長)をパネリストに、「ぶれない人権教育の創造〜同和教育の確かさを受け継いで〜」と題したパネルディスカッションが行われた。

後期 全体会で、志水宏吉さん(大阪大学大学院人間科学研究科教授)による、『力のある学校をつくる』―学力新時代の課題―と題した講演があった。

兵教組に結集する組合員・仲間の皆さま、夏休みに入り、忙しい日々とみえつつも、2学期への実践へつなげる。この10月

兵政連議員より つだ加代子(川西市議員)

政、広域ごみ処理場の建設にかかわる問題。タツノオトシゴの形をした川西市の中心部で、中央北地区24haの地域開発の課題など、川西市の今後を決める大事業の大きなうねりを受けています。30年ほど前の人口急増により、小中学校の建設が川西方式でなされ、その大規模改修工事の必要性が叫ばれる折、耐震化の問題提起。

第35回教育課程編成講座

冒頭、山名幸一執行委員長は「35年目の教育課程編成講座こそが、兵庫の教育を守っていく源である。自信と誇りを持って頑張っていきたい。明石で開催される第58次県教研集会、兵教組は開かれた県教研を徹底して進めていく」とあいさつ

「同和教育をあまり考えていきたくない」などの感想があった。40代以上の参加者からは、「同和教育のアンケート結果に衝撃を受けた。多くの人に分かりやすく還元し、今一度何が必要か、何をすべきかを考える時である」と同和教育の必要性を再認識させられた。見えにくい現実を踏まえ、前向きにとりくむ必要性を感じたなどの感想があった。

「同和教育をあまり考えていきたくない」などの感想があった。40代以上の参加者からは、「同和教育のアンケート結果に衝撃を受けた。多くの人に分かりやすく還元し、今一度何が必要か、何をすべきかを考える時である」と同和教育の必要性を再認識させられた。見えにくい現実を踏まえ、前向きにとりくむ必要性を感じたなどの感想があった。

「同和教育をあまり考えていきたくない」などの感想があった。40代以上の参加者からは、「同和教育のアンケート結果に衝撃を受けた。多くの人に分かりやすく還元し、今一度何が必要か、何をすべきかを考える時である」と同和教育の必要性を再認識させられた。見えにくい現実を踏まえ、前向きにとりくむ必要性を感じたなどの感想があった。

「同和教育をあまり考えていきたくない」などの感想があった。40代以上の参加者からは、「同和教育のアンケート結果に衝撃を受けた。多くの人に分かりやすく還元し、今一度何が必要か、何をすべきかを考える時である」と同和教育の必要性を再認識させられた。見えにくい現実を踏まえ、前向きにとりくむ必要性を感じたなどの感想があった。

「同和教育をあまり考えていきたくない」などの感想があった。40代以上の参加者からは、「同和教育のアンケート結果に衝撃を受けた。多くの人に分かりやすく還元し、今一度何が必要か、何をすべきかを考える時である」と同和教育の必要性を再認識させられた。見えにくい現実を踏まえ、前向きにとりくむ必要性を感じたなどの感想があった。

「同和教育をあまり考えていきたくない」などの感想があった。40代以上の参加者からは、「同和教育のアンケート結果に衝撃を受けた。多くの人に分かりやすく還元し、今一度何が必要か、何をすべきかを考える時である」と同和教育の必要性を再認識させられた。見えにくい現実を踏まえ、前向きにとりくむ必要性を感じたなどの感想があった。

「同和教育をあまり考えていきたくない」などの感想があった。40代以上の参加者からは、「同和教育のアンケート結果に衝撃を受けた。多くの人に分かりやすく還元し、今一度何が必要か、何をすべきかを考える時である」と同和教育の必要性を再認識させられた。見えにくい現実を踏まえ、前向きにとりくむ必要性を感じたなどの感想があった。

「同和教育をあまり考えていきたくない」などの感想があった。40代以上の参加者からは、「同和教育のアンケート結果に衝撃を受けた。多くの人に分かりやすく還元し、今一度何が必要か、何をすべきかを考える時である」と同和教育の必要性を再認識させられた。見えにくい現実を踏まえ、前向きにとりくむ必要性を感じたなどの感想があった。

「同和教育をあまり考えていきたくない」などの感想があった。40代以上の参加者からは、「同和教育のアンケート結果に衝撃を受けた。多くの人に分かりやすく還元し、今一度何が必要か、何をすべきかを考える時である」と同和教育の必要性を再認識させられた。見えにくい現実を踏まえ、前向きにとりくむ必要性を感じたなどの感想があった。

兵庫の教育を守る源としての教育課程編成講座を

執行委員長あいさつ要旨



山名 幸一

執行委員長あいさつ要旨

一方で、子どもたちを取り巻く状況はどうか。年間の自殺者が3万人を10年連続で超え、児童虐待やネットによるいじめが深刻さを増し、不登校の子どもの数も依然として減ってはいない。また、学校を出た青年たちを待つ社会は、ワーキングプアと呼ばれる年収200万もない人たちが1000万人以上いると伝え

られている。私たちはどんな子どもたちを育て、子どもたちどんな力をつけてやるのか、そのためにお互いが、どうい教育研究をしていくのか、これは本当に真剣で深刻な課題である。この教育課程編成講座こそが、兵庫の教育を守っていく源であるという、自信と誇りを持って頑張っていきたい。私たちの労働条件、勤務条件を含めた教育研究を、地域の保護者、労働者と

ともに考えていく。そして私たちの労働を、県民、市民に問うことが必要だと思っ

第58次県教研集会は、明石で開催される。兵教組は、「開かれた教研」を徹底して進めていく。この教育課程編成講座は、県教研集会の前段の中間研究集会ともいうべき場、県教研の成功に向けて、実のある論議を期待する。

「もしも」のときに頼りになる、教職員共済生協の共済をご利用ください

この広告は、団体生命共済・医療共済の概要を説明したものです。ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項説明書(契約概要・注意喚起情報)をご覧ください。TEL 078-221-9730



「障害のある人とその親の参加があり開かれた教研」につながる編成講座になったのでは(声屋)との感想があった。障害児教育分科会。

今年度の夏から、教員免許の更新の試行が始まった。まだまだ不透明な部分が多

今年度の夏から、教員免許の更新の試行が始まった。まだまだ不透明な部分が多

今年度の夏から、教員免許の更新の試行が始まった。まだまだ不透明な部分が多

今年度の夏から、教員免許の更新の試行が始まった。まだまだ不透明な部分が多

団体生命共済・医療共済

<中途・追加>加入 受付開始! いまからでもご加入できます!

契約例

死亡 2,000万円タイプ (20口)
死亡・高度障害 2,000万円
公務・交通災害死亡 3,000万円
所定の障害 800万~100万円

月掛金 5,400円

入院 5,000円タイプの場合

(医療スタンダード5口=基本契約+長期入院特約+手術特約+退院特約)

入院 1泊につき 5,000円
長期入院 一時金で 15万円
手術 一時金で 20万~5万円
退院 一時金で 5万円

月掛金 1,750円 (60歳以下の場合)

「もしも」のときに頼りになる、教職員共済生協の共済をご利用ください



この広告は、団体生命共済・医療共済の概要を説明したものです。ご契約にあたっては必ずパンフレットおよび重要事項説明書(契約概要・注意喚起情報)をご覧ください。TEL 078-221-9730



第35回教育課程編成講座 前期パネルディスカッション 「ぶれない人権教育の創造 ～同和教育の確かさを受け継いで～」 より一部抜粋

一人ひとりを大切に する教育の原点

同和教育は部落差別の現実に学ぶこと

コーディネーター 富田裕さん(天理大学人間学部講師)、パネリスト 井上拓路さん(宝塚)、古田圭策さん(加印)、北谷錦也さん(兵庫組教文部長)



富田さん

07年度人権侵害の事件数は、21,506件、そのうちいじめにかかわるものが、2,152件でいずれも過去最高。前年の121%増と報道された。しかし、これは法務省調査による申告数のため、氷山の一角にすぎない。これだけ多くの人が人権侵害に苦しんでおり、子どもたちが被害にあっている状況下で、全国的に20、30代の教職員で、同和教育の確に答えられる人はほとんどいない。同和が学校教育の課題にあげられず、忘れられようとして

同和教育のぶれ背景

02年の特別法の失効があげられ、差別が無いと結論づける人に象徴されるように、実態をしっかりと見ていない。また、同和教育から人権教育への名称変更により、①同和教育の結核としての人権教育②同和教育の代替としての人権教育③万能としての人権教育④同和教育の成果としての人権教育が言える。しかし、私たちが同和教育の原点に立ち戻ることしなければならぬのではないのか。同和教育の原点を、差別を見抜き、差別をなくす子どもを育てようとする力を入れてきたが、差別と闘う子どもを作れたか、言い換えれば差別と闘う教職員として生きてこれたか。

同和教育の原点とは何か。それは部落差別の現実に学ぶこと。さらに部落の子どもたちが生きること、励ます活動、解放学級、また、あらゆる人権問題につ

井上さん

教師は差別をなくすことのできる立場と、差別を生み出してしまふ立場。教師としてできることは授業の原点、子どもたちの暮らし、将来をみつめ、喜びや悲しみを共有してきた同和教育が、実態調査の結果からも明らかに後退し、意識の低下を指摘せざるを得ない。こういったことに対して警鐘を鳴らしていきたい。



古田さん

35年前部落差別と出会い、差別をなくす教師になろうと思った。解放学級では闘う子どもを作らなければならぬと、先輩の先生から言われた。差別落書きの対応が後手に回ったことに、もつと的確にはつきりとした対応ができたのではないかと反省する。被差別側の子どもに、一緒に闘おうといった行動の証として、知人や保護者などの悪い発言に対しては的確に指摘をしていく。同和教育は楽しく、面白いもの。出会っていきいきと学ぶことが本意にあれば面白い。

北谷さん 学校、教職員には差別は無いと思いきや教師になった。



北谷さん

「闘う子ども」とは、被差別側の子どもたちが差別に負けない、目の前の差別と闘うというのほもちろんのこと、そうではない子どもたちが、不道徳な現実や自分の心のひっかかりに出会った時、見て見ぬふりをするのではなく、この現実を打破していくために闘うことも含め、そういう子どもたちを育てなければならぬのではないのか。

井上さん 子どもたちに「君たちはとても大事な子だから、自殺だけはしないで。友達、親、誰でもいいので相談して」と伝えている。県教研



野口克海さん

同和教育論を始める大学1年生に、小・中・高等学校で同和教育・部落問題学習をしたことがあるかと問うと、01、02年度は、150人ほどの全員が手を上げていた。しかし、わずか6、7年で半数に減った。教育長時代に堺市の0-157食中毒事件があった。当時他府県の旅館から堺の住民に対して、予約のキャンセルの連絡があった。0-157の正しい理解がなく、無知が偏見を呼び、偏見が差別を生む構造は、部落問題でも同じではないか。もう一度気を引き締めて、部落・同和教育をきっちりと考えていく機会を、小・中・高のどこかで作っていかねばならないと思いを持った。

会場からの意見等 「人を見る目、人をもつと大事にする子どもたちを作っていくような教育者でありたい」 「同和教育だけでなく、はじめなども、自分の気持ちを手を伝え、共通理解しようというコミュニケーションのとり方を進めていくことも、これからの役割だと思つた」 (豊岡)

生活指導をする中で、同和教育も同じだと思つた。「嫌や」と言える子を作りたい。そして、分らないことを「教えて」といえる子、次に楽しいことに「誘って」といえる子を見込んで作れば、いじめや不登校もなくなり、友達つなげる子が作れるのではないのか。部落出身や外国人などの問題から逃げるのができない子どもたちが、希望もてるような教育を学校でできたらと思う。

「闘う子ども」とは、被差別側の子どもたちが差別に負けない、目の前の差別と闘うというのほもちろんのこと、そうではない子どもたちが、不道徳な現実や自分の心のひっかかりに出会った時、見て見ぬふりをするのではなく、この現実を打破していくために闘うことも含め、そういう子どもたちを育てなければならぬのではないのか。

しかし、教師という職にとてもやりがいを感じる。未来を担う子どもたちに、自分を語れる立場と思つてうれい。

同和教育論を始める大学1年生に、小・中・高等学校で同和教育・部落問題学習をしたことがあるかと問うと、01、02年度は、150人ほどの全員が手を上げていた。しかし、わずか6、7年で半数に減った。

学校厚生会 「すまいる住宅貸付」創立40周年記念キャンペーン

標準変動金利		年利 2.25%
特約	固定金利	2年 年利 1.47%
		3年 年利 1.62%
		5年 年利 1.95%
上限金利付 変動金利(10年)	約定金利	年利 2.31%
	5年目まで	上限金利 2.67%
	6年目～10年目まで	上限金利 3.45%

※上限金利とは、変動金利(10年)適用となる約定金利に上限が設定された貸付で、その期間内に金利がどんなに上昇しても、上限金利以上になることはありません。

3大疾病保障付「すまいる住宅貸付」
すまいる住宅貸付利率 \oplus 上乗せ金利 0.20%
 3大疾病と診断されれば、住宅ローンの残高が0円!
 「すまいる住宅貸付」新規申し込みに限ります。既契約には付帯できませんのでご了承ください。
 新規借入れする方で貸付日現在の加入年齢が満19歳6ヵ月を超え満50歳6ヵ月までとなります。

〒650-00112 神戸市中央区北長狭通4丁目7番34号
(財)兵庫県学校厚生会
 信用共済部
 電話 (078) 331-9974

2008年8月1日現在